

令和5年度 第1回資料館学芸委員会

開催日時	令和5年7月28日（金） 開会時刻 午前9時30分 閉会時刻 午前11時
開催場所	丸亀市立資料館2階ギャラリー
出席者	出席 学芸委員 田中 健二 委員長 川元 紀恵 副委員長 信原 清 委員 泉 政博 委員 杉尾 潤子 委員 事務局 教育部長 窪田 徹也 文化財保存活用課長 東 信男 資料館長 大北 知美 香川 章栄 滝澤 和湖
議 題	（1） 令和4年度資料館事業報告について （2） 令和5年度資料館事業について （3） 今後の資料館の事業展開等について （4） その他
傍聴者	無

発言者	発 言 要 旨
	【開 会】 【委嘱状交付】 【教育長あいさつ】 【自己紹介】 【会議の成立】 過半数を超える出席により会議成立 【役員選出】 委員長 田中委員 副委員長 川元委員 【委員長あいさつ】 【署名委員選出】 泉委員 委員長 それでは、議題（１）「令和４年度資料館事業報告について」の説明を事務局からお願いします。 事務局 議題第１号 令和４年度 資料館事業報告についてご説明いたします。 まず、【１階企画展示室】の展示状況について説明します。 ５月３日、４日のお城まつりでは、丸亀市文化協会による市民展 書道を開催し、２日で４６２人の入場者がありました。 次に７月２３日から９月４日まで、開館５０周年記念の第１弾として、これまでに開催した３００回の企画展を、資料や展示風景写真などでたどる「資料館５０年のあゆみ」を開催しました。３８日の会期で、２,７６８人の入場者でした。 この企画展にあわせて、子どもたちに分かりやすいように資料館の歩みを紹介した記念動画を作成し、ロビーで上映しました。また、記念品として資料館の主な収蔵品をデザインしたクリアファイルを作

成し、動画内のクイズに答えた 18 歳以下の子どもたちにプレゼントしました。

次に 10 月 15 日から 11 月 23 日まで、記念展の第 2 弾として、絵図や古文書、出土品などで、城や城下町の変遷をたどる「丸亀城と城下町」を開催し、35 日の会期で 4,043 人の入場者でした。この展覧会では、子どもたちの来館を増やすために、子ども向けの案内冊子を作成しました。

展覧会の開催にあわせて、初日に開館 50 周年記念セレモニーを行いました。また、企画展と同時開催で、泉学芸委員の制作した 150 分の 1 の天守模型を展示した「くらべてみよう！ 現存 12 天守模型展」をロビーで行いました。さらに、NHK 大河ドラマで歴史建物の時代考証をされている三浦正幸氏の記念講演会や、旧市役所跡地の発掘現場説明会など、様々な関連イベントを行いました。

年明けの 1 月 14 日から 2 月 19 日までは、記念展の第 3 弾として、近代日本画壇や郷土で活躍した画家や書家の作品を通して、伝統的な表具の装丁を紹介する「表装の美」を開催しました。32 日の会期で 2,581 人の入場者となりました。

関連の催しとしては、会期最初の日曜日に、丸亀市文化協会会員の「表千家表讃会」によるお茶会を開催しました。また、展覧会を鑑賞いただいた方には、先着 1000 名に展示作品をデザインしたオリジナルの一筆箋をプレゼントし、資料館に対する思いや展示の感想を一筆したためてもらいました。

なお、昨年度は 3 回すべての企画展で、展示資料の解説を行うギャラリートークを再開しました。

3 回の企画展の合計入場者数は、9,854 人となりました。

次に、資料の【2 階 常設展示室】の展示状況をご覧ください。

常設展として「生駒・山崎・京極の歴史と文化展」を開催し、城郭資料館としての機能を果たしました。常設展示室の入館者数は 15,728 人で、昨年の 1.8 倍となりました。

また常設展示室では、部分的に資料の入れ替えを行っており、昨年度は、4 回の展示替えをしました。それぞれのコーナー展示は、資料のとおりです。

【2 階 ギャラリー】についてですが、ミュージカル刀剣乱舞にっかり青江の香川公演に合わせて、10 月 11 日から 13 日の 3 日間、主演でにっかり青江役の荒木宏文氏のサインとパネル展示を行い、1,215 人の方が来館しました。

続きまして、【1 階ロビーと民具展示場】の展示状況です。

ロビーでは、通年展示している変わり兜の展示のほか、4月から5月初めにかけて、城西小学校4年生が校外学習で、石垣復旧工事の現場や丸亀城の歴史について学んだ内容をまとめた「令和3年度城西小学校4年生 校外学習成果の展示」を行いました。また、8月27日から31日までは、西讃地方の風習の一つ「八朔だんご馬」を展示しました。その他については、先ほど説明したとおりです。なお、民具展示場については、昨年と同様の展示でした。

【企画展関連講演会・行事】について説明いたします。先ほどふれました三浦正幸先生の講演会ですが、「未知と魅力に満ちた天下の名城 丸亀」と題して、11月12日にマルタスで行い、100人の聴講者が来られました。

また、表装の美に合わせて開催したお茶会には、150人の方にご参加いただきました。

資料には【参考】として、令和元年度からの入館者数の推移を記載しております。

こちらには、講演会や関連行事の参加者も含んでおります。令和4年度の資料館の総入館者数は27,047人で、ニッカリ青江を公開した前年度と比べて、約650人増加しました。特に、子ども向けの動画の放映や子ども向けの冊子や記念グッズの作成をしたこともあり、18歳以下の来館者が1,399人となり、令和3年度と比べて約4割増加しました。

次に【資料館資料整備状況】について説明します。

収蔵資料は令和4年度末で183点増加し、39,172点となりました。新しく収蔵された主な資料は、郷土の画家秦巖溪の梅の花を描いた襖絵や日本画の大家横山大観の寒山拾得図などです。秦巖溪の襖絵は、現在常設展示室で公開中ですので、ぜひ後でご覧ください。

購入した資料は、京極家の中級家臣であった百々家の古文書です。今後、新収蔵資料については展覧会で公開するなど、有効に活用してまいります。

最後に【資料の特別利用・レファレンス件数】についてです。

資料の閲覧、撮影、貸し出しなど特別利用は47件、問い合わせに対する回答は101件、合計148件でした。

郷土史に関する問い合わせ内容は、多岐にわたりまして時間もかかることから苦慮しているところです。しかしながら、一般の方の郷土史学習を補佐することは大切な業務ですので、今後も丁寧に対応してまいりたいと思います。

以上で報告を終わります。

委員長	ありがとうございました。昨年度の資料館事業報告をいただきましたが、委員の皆様方のご意見等がありますか。 口火を切らせてもらいますと、2 枚目に入館者数の推移がありますが、令和 2 年度はかなり落ち込んでいますね。その理由は何でしょうか。
事務局	コロナの関係で、資料館自体が休館となったことが大きかったようです。
委員長	資料館の改修は、それより前でしたか。
事務局	はい、そうです。
委員長	では、入館者数は平成 31 年並みに戻ってきたと理解してよいでしょうか。
事務局	はい。
委員長	これから先はもっと増えるでしょうね。委員の皆様、その他の意見はどうでしょうか。
委員	以前は文化協会が、年に 1 回は必ず、大きいものは 2 年に 1 回くらい、いろいろなところから資料を借りてきて、1 階展示室で展示をしていました。中には有料でやったものもあるし、本島の仏像を展示したこともあります。 また、県展の賞をとった人や無審査・招待作家とかを一堂に会して、1 階企画展示室で展示をしていました。ところが、予算が一時期減額となったようで、その後展示がなくなりました。丸亀市内の入賞した方の作品を見たいという方は大勢いるし、資料館の入館者も増えますよね。 地元で活動している方の作品の成果を発表する場所としての展示を復活させたら、資料館の有用性をアピールできると思うのですが。
委員長	こちらのご提案は、(3) の「今後の資料館事業展開等」についてでまた意見していただけたらどうでしょうか。

委員	分かりました。
委員長	昨年度の事業報告について承りたいと思います。他にございませんでしょうか。 私、記念事業は、50 周年記念セレモニーには参加しましたが、後はあまり行けてなくて。
事務局	昨年度の展覧会の冊子と記念のグッズを用意しておりますので、後で皆様持って行っていただけたらと思います。
委員長	ご意見のある方お願いします。記念事業をやったら、どこかで総括はしないといけないので。 【他に意見なし】
委員長	そうしましたら、次の議題に入りたいと思います。では（１）についてはこれでよいでしょうか。 それでは議題（２）「令和５年度 資料館事業について」のご説明をお願いいたします。
事務局	それでは議題第２号、「令和５年度 資料館事業」について説明いたします。 まず、５月３日、４日のお城まつりには、丸亀市文化協会主催の市民展を開催し、636 人の入場者となりました。同じく文化協会主催で５月 20 日から 28 日まで、令和３年 12 月にお亡くなりになった書家の大西きくゑ先生の遺墨展を開催しました。８日間の会期で 1,243 人の入場者がありました。 次に資料館主催の企画展に関してですが、７月 15 日より、丸亀の藩政を支えた京極家の家臣たちを紹介した「殿様を支えた家臣たち」を開催しており、会期は９月 10 日までとなっております。なお、会期中に２回、担当者による展示解説を行います。 10 月 7 日から 11 月 23 日までは、動物が表現された美術品や工芸品、郷土玩具などを集めた企画展「愛でる生きものたち」を開催する予定です。人と関わりの深い身近な動物から、空想上の生きものまでを幅広くご紹介します。こちらも会期中に２回、担当者による展示解説を行います。

	これら企画展の会期中に来館者の傾向を把握し、今後の事業運営の参考にするため、来館者の方へ任意でアンケート調査を実施しております。 その他、今年度は、館内の照明を LED に転換する照明改修工事を行います。7 月末で照明工事の設計を終え、12 月から 2 月までの 3 ヶ月間、資料館を休館にして、工事のための資料の移動、改修工事を行う予定となっております。 令和 5 年度の資料館事業については、以上です。
委員長	ありがとうございました。そうしましたらただ今のご説明に対して何かご意見等はございませんでしょうか。
委員	照明のための休館というのを私が今まで知らなかったのですが、公に発表されているのでしょうか。
事務局	現在、設計が終わった段階で、工事の入札が終わっていません。工事をする業者が決まり、工期が確定したら公にお知らせできると思います。
委員	お知らせは結構直前になりますか。
事務局	10 月くらいには公にお知らせできるかと思います。
委員	ありがとうございます。
委員長	よろしいですか。 展示の方ですけど、丸亀藩医の河田雄禎。この人有名な方ですよ。ね。四国で初めて種痘を行った人です。数年前から、香川大学の医学部の OB で名誉教授の方と一緒に、香川県においての種痘の広がり方を研究させてもらっておりまして、丸亀といたら必ずこの人が出てきます。チラシの裏面を見てもらったら分かりますが、緒方洪庵から種痘の種をもらっています。緒方洪庵の直弟子の筆頭が香川から出ておりまして、種痘の研究が丸亀の方から詫間の方に広がっているんです。このように、医者ネットワークっていうのがあるなというのが分かるような研究をやっております。 あの、先ほど委員さんがおっしゃっていた文化協会の展示というのはこのことではないですか。

委員	今回は資料館の関係ではないのですが、資料館を活用するために過去にいろいろと教育委員会や文化課などが行っていたことが、今では行われなくなっています。おそらく予算や人員の関係でなくなったのではないのでしょうか。市民の奨励になるようなことは資料館と協力して、行ったらよいと思います。
委員長	そのあたり取り組みの状況はいかがでしょうか。今問題になっているのは、市民の発表の場の確保だと思うのですが。
事務局	文化・芸術分野と資料館との関係というところだと思います。委員さんが現役のころと比べると少し状況が変わっているのは、文化行政が市長直轄の中での組織という機構改革が行われ、組織機構上のあり方が変わったことです。組織機構の変化によって、少し文化行政と文化財保護・資料館行政との距離ができたという風を感じる場所があるかと思います。ただ、現在は文化行政の中で生涯学習活動などを含めた市民との接し方、市民の活躍の場の確保といった取り組みを進めております。 また、資料館との関係というところで申し上げますと、先ほど令和5年度の資料館事業の予定のところでご報告させていただいた文化協会主催の展示・企画などしながら、連携を図っているところです。それが委員さんから見ると少し不十分に見えるのご指摘かと思います。そういった取り組みの不十分さは、私どもも真摯に反省しながら、これからの取り組みの中で補っていけるところは補っていきたいと思います。 今後の取り組みの中で大きな転機となるのが、新しい市民会館の建設です。新たな市民会館の機能の一つに生涯学習機能も含まれます。新たな施設との役割分担や文化協会との連携により、これまで以上に資料館活動を発展していく形で行ってまいりたいと思っております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。
委員長	香川県も同じで、県知事と教育委員会との関係がちょっと分かっていくようになってきています。高松市も似たようなところありますよね。この事業は教育委員会の方だったかな、市長部局だったかな、というように。丸亀も同様のことが起こっているのでしょうか。いかがですか。

委員	要は、人の問題だと思います。行政の一般職の人でも、工夫次第で取り組むことはできると思います。マルタスでの文化事業はどうですかね。例えばここも規制があるように、マルタスも展示場所としては、少し難しいというところがあると聞いているので。
事務局	マルタスにも展示の趣旨がありますので、その趣旨に沿う範囲であればできるというところでないでしょうか。
委員	そこでお願いしたいのは、資料館は非常に少ない予算の中でがんばっておられますので、頻繁にはできないと思うのですが、10年、5年に1回とか、この前も50周年記念がありましたけど、ああいう時に、いろんなところ、有名な博物館から借りてきて展示ができればいいと思います。
委員長	こういう場ではしっかりご意見は述べられた方がいいと思いますよ。やっぱり言い続けていくことが必要ではないでしょうか。 それと生涯学習の方は、結構どこも充実させていっていますね。私、高松市の生涯学習センターの運営協議会の会長をしているのですが、昨日の午後もその話をしておりました。若い人をどう取り込むかという話の内容で、とても活発な話し合いでした。生涯学習となると、どうしても高齢者が対象になってしまうんです。だから高松市の場合は、どうやって中学生・高校生・大学生を取り込んでいくかとか、現役で働いている30代の人をどうやって呼び込んでいくかを企画しておりましたね。それでかなり成果を上げておられました。
委員	丸亀市民の方も、また潜在的なニーズを攻略していけばいいと思います。来てもらえるような企画を作ること。来やすい雰囲気をつくること。新しい市の施設ができれば住み分けが必要になりますからね。だから、資料館はこの分野が一番得意、生涯学習課はこの分野が一番得意みたいな。それぞれのニーズを引っ張り上げてくれたらいいのですがね。
事務局	生涯学習の方は私の所管外なので、答えにくいところもありますが、取り組みは、文化協会を中心にいろいろな団体と連携を取りながら進めています。

委員長	(2) の議題は以上でよろしいでしょうか。 (3) 「今後の事業展開について」の説明を事務局からお願いいたします。
事務局	近年、全国的な傾向として、博物館や資料館では、資料の収集・保存、展示、調査研究、教育普及など従来からの業務に加え、SNS などを使った情報発信やデジタルアーカイブ、観光や地域振興などへの貢献と様々な役割が期待されるようになってきております。当館においても、こうした時代の要請に対応した事業展開を考える時期であると感じております。昨年、開館 50 年という節目が過ぎ、将来の資料館のあり方や目指す方向について、再考するよい機会と捉えておりますので、委員の皆様にご意見をいただきたいと思います。 よろしくお願いします。
委員長	何かご意見はございますでしょうか。
委員	今年度の計画が出ていますが、再来年が瀬戸芸の年ですよ。その年に大阪万博もあり、香川県としてもコラボをぜひ協力してみたいという声が各メディアから聞こえてくるのですが、何かそういう企画みたいなものは資料館として持っておられるのかなというのが一つです。 もう一つが、先ほど言われていた SNS とかデジタルのものについて、私はデジタルに疎いので使わないのですが、数年前にニッカリ青江を展示した時に、お城の中の QR コードを読み取ると、そこからいろいろな解説が聞こえてくるっていうのがあって、すごく若い人がみなさん楽しんでおられました。もちろんここにもたくさん来られていたでしょうし、お城の中もまるごとテーマパークみたいで。ああいうのって新しくていいなと思いました。その 2 点、再来年がどうなのか、デジタル化を進めていってもらいたいだろうなという点です。
事務局	再来年度、令和 7 年度の展示企画については、まだ今のところ具体的には計画しておりませんが、委員さんがおっしゃられたように、瀬戸芸とか大阪万博などがありますので、こうしたことを踏まえて企画していきたいと思います。あと SNS などを使った情報発信ということで、今年度丸亀市の方も LINE 活用が始まる予定で、市の方でも SNS の充実が図られているところであります。資料館も SNS

	を活用し、情報発信をしていけたらと考えております。
委員	もう一つ。私スタンプラリーが好きで、最近なんでも QR コードを読んで、行きましたっていう証明になるものも出てきています。私はスマホを持っていないので、持っていない人にも紙の何かが欲しいなっていうのはあります。「スマホを持っていなかったら、そういう権利すらないよ」というのは残念なので、持っていない人にも何かをして欲しいなっていう思いもあります。 あと、美術館・博物館のスタンプラリーの小さな冊子がありますよね。私持っておりますが。 香川県でいうと、四国村とか高松市美術館とか、猪熊弦一郎現代美術館とか。中津万象園も入っているのですが、ここは入っていないなと思って。
事務局	スタンプラリーに関して、参加についての声はかかってきませんでした。
委員長	ここ、博物館相当施設ではないでしょう。
委員	美術館でも博物館でもないの、そこには入らない感じですかね。なるほど、分かりました。
委員長	いえいえ、分かりにくいですよ。なんでここは入っていないのかなって。 予定した時間に近づいているので、議題（３）はこのあたりにしましょうか。最後に、（４）「その他」があるのですが、その他何かございますか。
委員	できれば、丸亀城の復元模型を資料館の方でつくっていただけたらなと思っております。
委員長	それは大変でしょうね。
委員	大変でしょうね。１億円以上費用がかかるかもしれませんね。笠島の模型がありますよね。あれはいくらかかりましたか。
事務局	1000 万円ではできていないと思います。

委員	昔、丸亀城の模型をつくる計画があったのですが、途中で頓挫しました。模型をつくるとなると、研究をしなければならないし、いい加減なものをつくれません。 今後の石垣の完成に合わせてつくってほしいです。丸亀城がどんなものであったかということを知るために。特に子どもたちには、絵で見せても、バーチャルで見せても、模型の方が分かりやすいと思います。私が作ったのが150分の1くらいの模型ではちょっと巨大になりすぎる可能性はありますが。どこの城に行っても博物館に行っても復元模型はありますので、資料館にないのはとても残念です。子どもたちに教育するにはちょうどいいと思います。
委員長	模型はかなり大きいですね、場所も取るし。
委員	特に丸亀の場合は、形の違うお城が3つありました。
委員長	どの時代にするかっていうのはありますよね。
委員	きちんと復元はできないかもしれませんが、報告書も出ていることですので、石垣の完成に合わせてぜひお願いします。
委員長	さて、このくらいにしておきましょうか。他にありませんか。
事務局	毎年学芸委員さんと協力委員さんを対象に学習会をやっていますが、今年は、田中先生の方からご発表いただけるというお話がありました。先生の方から内容を簡単にご説明いただけますか。
委員長	この近所に香川労災病院がありますね。ここが広報誌「いぶき」を年に4回出していて、原稿を寄せています。せっかくだから丸亀の話がいいだろうと思いまして、4回連載しました。最後は街歩きみたいな話を書きました。どこを歩いたらどこに出ますとか。標高差が歩いてみたら分かりますよって話をして終わったのですが、そしたら2年目にかかって、また声がかかったものですから、次は満濃池の話を書き、その次は坂出の塩田の話を書いて、今度は土器川の話を書きました。土器川という名前はいつからあるかっていう話ですけどね。江戸時代の初めの寛永年間に、江戸幕府の隠密が四国のお城を調査して回っているのですが、この近辺を通って飯野山の龍

	王っていうところ、あそこで土器川を渡っています。そこでひらがな書きで「土器川という川を渡った」って書いてあります。続いて飯野山の東を抜けて北岡というところの川を渡っています。その川が今の大東川です。だから江戸時代の初めの寛永年間には、土器川と大東川は別の流れになっていったということが分かります。当時の絵図もあり、水流も別のものになっています。 連載しました広報誌を使って学習会をしようと思います。その時資料も差し上げますから、ぜひともいらっしゃってください。 あと集まるのはどういう方だったでしょうか。
事務局	協力委員さんと学芸委員さんでの学習会です。
委員長	協力委員さんもいるんですね。プロジェクターを使いながら説明していく予定です。
事務局	予定を立てますので、ご案内致します。
委員長	ぜひとも楽しんでいただきたいと思います。
事務局	事務局の方は以上です。 以上をもちまして、本日の会議は閉会といたします。委員の皆様、どうもありがとうございました。 このあと、1階企画展示室にて開催中の展覧会、「殿様を支えた家臣たち」をご案内いたします。担当者の解説もございますので、お時間の許す限りお楽しみください。どうもありがとうございました。